

平成28年3月

## 西尾育子 学位論文審査要旨

主査 深田美香  
副主査 花木啓一  
同 片岡英幸

### 主論文

A qualitative study of confusing experiences among Japanese adult patients with type 1 diabetes

(日本人の成人1型糖尿病患者の困惑する体験の質的研究)

(著者：西尾育子、中條雅美、片岡英幸)

平成28年 Yonago Acta medica 59巻 81頁～88頁

### 参考論文

1. Opinions and satisfaction regarding continuous subcutaneous insulin infusion therapy in adult patients with type 1 diabetes

(成人1型糖尿病患者の持続皮下インスリン注入療法に関する治療満足度および意見)

(著者：西尾育子、中條雅美、大倉毅、片岡英幸)

平成27年 Yonago Acta medica 58巻 101頁～107頁

2. Type 1 diabetes patients using continuous subcutaneous insulin infusion therapy: feeling burdened correlated with factors

(持続皮下インスリン注入療法中の1型糖尿病患者：要因と相関する負担感)

(著者：西尾育子、中條雅美)

平成27年 Yonago Acta medica 58巻 123頁～128頁

## 審査結果の要旨

本研究は、1型糖尿病患者を対象に、日常生活上の困難や苦しみ、無力さ、自己管理、家族や友人から受ける支援の難しさなどの語りをグラウンデッドセオリーアプローチの手法により分析し、パワレスネスとその構造を検討したものである。その結果、パワレスネスは「内的・外的要因から生じる出来事を体験する際に自分の力ではどうすることもできない困難さ」であり、その構造は「1型糖尿病という重荷を背負う」、「インスリンの弊害に苦しむ」、「セルフマネジメントの困難さに対処できない」、「社会からの偏見」の4カテゴリから成り立ち、困惑する体験に苦しむという特徴が示された。パワレスネスは否定的な感情だけでなく、否定的な認知や思考も融合されて生じることが示された。

これまで明らかにされていなかった1型糖尿病患者の困惑する体験に存在するパワレスネスとその構造を明らかにした本論文の内容は、明らかに学術水準を高めたものと認める。